

JA横浜 SDGs達成に向けた取り組み

JA横浜が掲げる「人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献する」という理念は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」と共通するものです。

当JAの行う各事業はSDGsの目標と親和性が高く、ともにめざす社会・未来は同じです。

当JAは農業協同組合として各事業を展開し、SDGsの達成に向けて取り組みます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



●SDGsとは

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

〔外務省ホームページより〕

● J A 横浜の SDGs に関連した取り組み

J A 横浜の取り組みの多くが、SDGs「17の目標」に深く関わっています。その一例を紹介します。

★『安全・安心な横浜産農畜産物の提供』

- ・食品の安全性向上のために、GAP（農業生産工程管理）手法を活用した当 J A 独自の生産管理体制を構築し、安全・安心な横浜産農畜産物を供給します。
- ・産地の信頼確保に向け、「生産履歴記帳」の徹底や、各種研修会を開催します。
- ・かながわブランドへの登録をすすめ、横浜産農畜産物のブランド力を強化します。



★『横浜農業の担い手支援や後継者対策』

- ・農業関連講座による営農知識・技術の習得支援や、「援農ボランティア」による農作業支援を行います。
- ・担い手が不足する農地を利用し、水稲作・野菜作・果樹作・体験型農業等、当 J A 自らが農業経営を行うことで、円滑な農業承継と横浜農業の発展に貢献します。



★『食農教育の継続推進と食品ロスの削減』

- ・食農教育マイスターによる小学校への野菜・稲作栽培指導、「J A 横浜 あぐり塾」による農業体験、横浜市と連携した農業体験等、食農教育を推進します。
- ・買い手の付かない野菜を「こども食堂」へ寄贈する「フードバンク事業」等により、食品ロスの削減に貢献します。



★『地域のつながり強化と健康・福祉への取り組み』

- ・「食と農」をテーマに、農業まつりや各種イベントの開催、利用者への訪問活動を中心に、地域のつながり強化につとめます。
- ・ミニデイサロンや「健康づくりサポート教室」等、高齢者への各種健康管理活動を通じた健康意識の啓発を行います。また、横浜市の「ハマハグ」に協賛し、妊娠・子育て中の方をサポートします。



★『環境保護・持続可能なエネルギーのために』

- ・農地の保全に向けた遊休農地や耕作放棄地対策、「援農ボランティア」による農作業支援や、当 J A による農業経営を通じた農地の維持・保全に取り組みます。
- ・生分解マルチの提案等、低環境負荷の農業資材を推進します。
- ・横浜市の緑化に寄与する環境配慮型商品の取り扱いや、横浜市の風力発電『ハマウイング』への協賛を継続します。
- ・回収したペットボトルキャップの寄付、J A 職員や組合員組織によるハマロードサポーター等の清掃活動により、プラスチックゴミの削減に取り組みます。
- ・農業体験事業等による生態系維持・環境保全意識の醸成につとめます。



★『地域の経済活動活性化に向けた取り組み』

- ・総合事業の強みを活かし、農業や不動産業に関する事業資金ニーズ、住宅・マイカー・教育ローン等の生活に関わる資金ニーズに応えるほか、共済事業による保障の提供や相談業務を通じた FP による家計の総合アドバイスや事業支援を行います。



★『働き方改革・女性の社会進出』

- ・フレックスタイム制の導入や年休の時間単位での分割取得など、働きやすい職場環境づくりをめざします。
- ・育児休暇取得職員の復帰支援を目的とした研修等、女性がキャリアプランを描きやすい環境整備やワークライフバランスの向上につとめます。

